

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

10

No.764

P2 特集

「じぶんの町を良くするしくみ」
赤い羽根共同募金10月スタート!

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
利用者も住民も職員も、
地域の一員として
～「さざんかの郷」による地域貢献事業～

P8 あなたのまちの社協ナビ
洲本市社協
地域で困っている当事者や家族に
寄り添う地域づくり

P9 広げよう! 地域の安心拠点
誰もが立ち寄れる地域の
居場所を開設!
～井吹台地区の取り組み～

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

10月から
「共同募金運動」が
スタートするよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

高砂市



「じぶんの町を良くするしくみ」 赤い羽根共同募金10月スタート!

赤い羽根共同募金は、今年で68回目を迎えました。
 全国一斉に始まった共同募金運動は、全国各都道府県の共同募金会が、それぞれの地域の福祉課題を解決する活動に必要な資金を募金目標額とし、毎年10月から12月まで展開します。
 今回の特集では、地域の中で社会的孤立の状態にある方々をめぐる課題が深刻化している現在、そうした課題を解決するための赤い羽根共同募金の今年度の取り組みを紹介します。



■図表2 平成26年度県内市区町共同募金運動の重点項目(募金方法別)

募金方法	重点的に取り組む事項
街頭募金	実施回数の増。ご当地キャラクターとのコラボレーション 学生ボランティアや園児、受配施設・団体の参加協力
学校募金	募金箱コンクールの実施 児童館、子ども会、学校との連携強化
イベント募金	新規イベントの企画。配布資材の有効活用 他団体のイベントやコンサート会場での募金協力
職域募金	募金箱設置箇所の増。キャラクター資材の活用
法人募金	商工会議所、商工会への協力依頼
その他の募金	募金百貨店プロジェクト(寄付金付き商品募金)の推進

県内市区町の目標額と重点項目
 こうした中で、平成26年度の兵庫県全体の募金目標額は555,041,000円と掲げました。このうち、県全体の福祉ニーズに対応するための資金と募金活動費にあたる広域目標額は103,150,000円、県内各市区町における地域福祉推進のための資金にあたる地域目標額は451,891,000円とされています。
 募金実績の低下状況の中、少しでも歯止めをかけようと、今年度は各地区で図表2のような重点項目を定め、募金額の上昇を目指しています。

兵庫県共同募金会オリジナルマスコットキャラクターグッズ2014



また、県全体の重点事項として、広報に力を入れ、オリジナルキャラクター「あかはねちゃん」グッズを用いた啓発活動や配分事業明しシートを用いて共同募金配分事業を通じての広報を進めます。特に、共同募金の「つかいみち」について分かりやすい説明ができるよう、広報紙やチラシに記載をし、住民、寄付者の理解を得た募金運動に取り組むこととしています。
 この事業には、赤い羽根共同募金が役立っています。
 共同募金の使い道を知らせる「共同募金配分事業」明示シート

共同募金運動の新たな動き
—募金百貨店プロジェクト—
 企業等からの法人募金の新たな取り組みとして生まれたのが「募金百貨店プロジェクト」です。平成24年度に山口県共同募金会が発案し、本年度は全国10県で取り組みが行われます。「募金百貨店プロジェクト」とは、企業等にとって本業にメリットのある寄付付き商品・企画を一堂に集約し、赤い羽根共同募金が募金の百貨店になろうというプロジェクトです。
 企業にとっては、商品を募金付きにすることで「地域のためになる商品」をアピールでき、住民にとっては日常の消費活動が地域支援につながるメリットがあります。共同募金としては、新しい寄付の形を開拓することができると期待しています。
 兵庫県では、平成25年度に4店舗(図表3参照)がオープンし、平成26年度は小野市で新たに3店舗が実施することとなりました。募金は価格に上乗せをするのではなく、通常

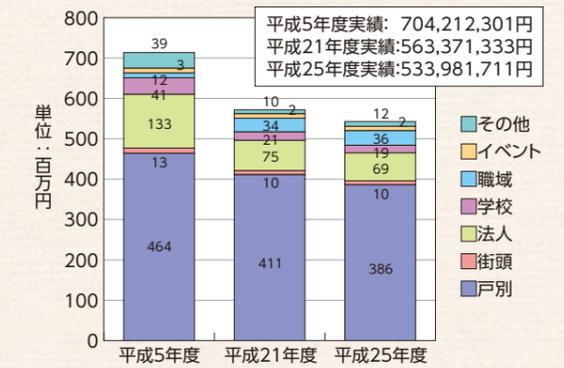
共同募金運動のいま
全国・兵庫県の募金実績
 共同募金は、終戦後2年を経た昭和22年に「国民たすけあい運動」として創設されました。兵庫県では初年度5,000万円の募金目標額を掲げて1カ月間募金を実施しており、実績額は34,985,855円、目標に対する達成率は70%でした。
 その後、昭和26年に社会福祉事業法が制定され、全国的に社会福祉協議会が結成されるようになると、地域の福祉ニーズに応えるための募金計画の金額は年々伸び、県内の在宅福祉活動の財源を支えてきました。
 また、平成7年1月の阪神・淡路大震災では県内10市10町に災害救助法が適用され、全国から共同募金会を通じ約159億円もの義援金が寄せられました。
 現在では、社会的孤立等地域福祉のさまざまな課題解決のため、市区町社会福祉協議会で次年度の事業実施計画を立て、募金活動を実施していますが、募金実績の動向としては、平

■図表3 平成25年度 募金百貨店プロジェクト 実施内容

地区名	会社名	店舗名	商品名と寄付金額、実施期間	募金実績
篠山市	(株)夢こんだ	こんだ薬師温泉 ぬくもりの郷	入浴大人1名につき2円、篠山うまいもん井注文で50円 (H25.11.1~12.31)	63,064円 (平成25年度)
		(株)アクト篠山	大正ロマン館	丹波篠山黒豆フロランタン(菓子)20枚入り1箱10円、 12枚入り1箱6円(H25.11.11~12.31)
兵庫県全	(株)兵庫福祉保険サービス		地震保険1件加入で200円 (H26.3.1~12.31)	継続実施中
神戸市西	(株)トーホー	楽農レストラン育みの 里かんでかんで	店長が選んだ旬の野菜または果物1パック10円 (H26.3.24~11.30)	継続実施中

代金のままで、売りに上げるに依りて企業側から寄付をいただきますので、消費者は寄付付き商品を購入するだけで募金に協力ができるしくみとなっています。

■図表1 方法別募金実績額の年度比較(兵庫県)



成5年度以降、下降傾向にあります。
 図表1は、兵庫県での共同募金実績額を募金方法別に年度比較したものです。最高額であった平成5年度から比べると、法人募金と学校募金の減少が大きく、長期的な経済不況や、災害義援金、海外支援等の募金環境の多様化等が影響していると考えられます。全国的にも平成7年度の179億円を募金実績のピークとして徐々に減少していますが、一方で住民参加による小地域福祉活動の広がりや、大規模災害時のボランティア活動の資金需要の拡大など、共同募金に対する資金ニーズは高まっている状況にあります。



小野市の町を良くするしくみ

「カットフォー・スマイル」

◆実施期間：平成26年10月1日～12月31日

◆参加企業：

- 小野市内の理美容店3店舗
- (株)アディア
- ヘア・スタジオ ハーモニー
- (株)ビィ・シャイン

◆実施内容：カット1回につき料金の1%が赤い羽根共同募金に寄付され、小野市共同募金委員会の募金実績となります。



募金百貨店プロジェクト
赤い羽根共同募金
小野市社協キャラクターウイングレッドも応援しています!!(小野市共同募金委員会募金百貨店プロジェクト覚書調印式)

円の交付決定を行い、活用を図りました。丹波市災害ボランティアセンターでは、災害ボランティアとして9月16日までに個人・団体を含め延べ13,860人が活動され、災害準備金による支援資金は、災害ボランティアセンターで使用する備品の購入や泥出しのための資機材の運搬費用等に使われています。

共同募金は、身近な地域での福祉活動の支援だけでなく、災害発生時の緊急支援のための資金としても役立っています。



災害準備金の積立状況
(3年間積み立て)

平成23年度分	21,900千円
平成24年度分	21,350千円
平成25年度分	21,080千円
合計	64,330千円

(平成26年3月31日時点)



丹波市災害ボランティアセンターの活動費にも共同募金が活用されています

「平成26年度 共同募金スタート宣言」

本年も10月1日から赤い羽根共同募金運動が全国一斉にスタートしました。

阪神・淡路大震災から来年1月で20年が経過しようとしている今、被災した街の復興は進みましたが、その間も少子・高齢の波は衰えず、地域の中で社会的孤立など多様な福祉課題への対応が必要になっています。

共同募金は、募金を通じて、地域の中で人と人とのつながりを生み出すしくみです。一人一人、あるいは一企業、一団体の協力が、地域で福祉活動を行う福祉施設や福祉関係団体、社会福祉協議会、ボランティア団体、NPOなどの活動資金として役立てられます。募金をくださった方々の温かい心が、支援を必要としている高齢者や、障害者、子ども、子育て中の方、生活困窮にある方々等を対象に援助を行っている活動者のもとに届けられ、募金を通して誰もが福祉活動に参加することができるのです。

兵庫県共同募金会では、これからも貴重な募金の使い道を住民、寄付者の皆さまに分かりやすい形で広報し、気持ちよく募金にご協力をいただいて、県内の地域福祉活動の財政的支援を行っていきます。

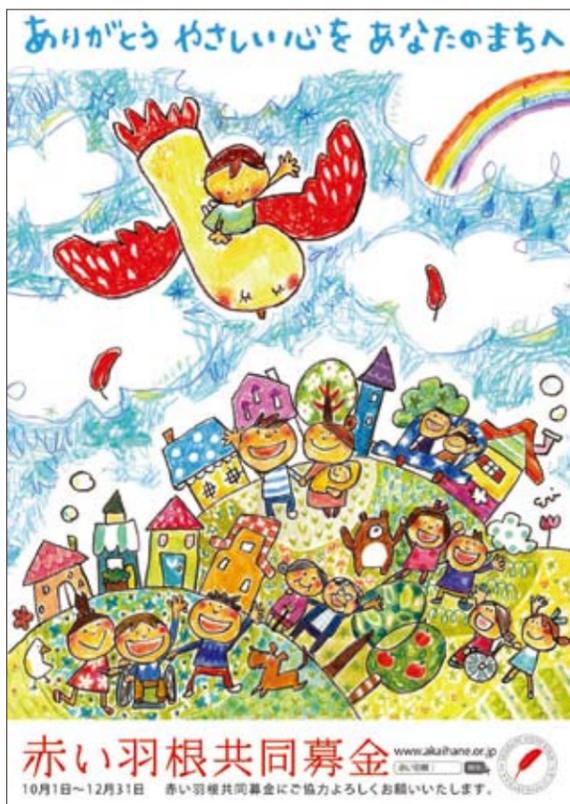
本年も、赤い羽根共同募金にご協力をよろしくお願いいたします。

兵庫県共同募金会では、これからも貴重な募金の使い道を住民、寄付者の皆さまに分かりやすい形で広報し、気持ちよく募金にご協力をいただいて、県内の地域福祉活動の財政的支援を行っていきます。

本年も、赤い羽根共同募金にご協力をよろしくお願いいたします。



社会福祉法人 兵庫県共同募金会
会長 菅原 巖



平成26年度共同募金ポスター

新たな配分方法の取り組み
—公募配分—

共同募金は募金実績の約8割が地域へ戻ってその地域の福祉活動に役立てられています。その内容が住民に見えにくく、募金の目的が分かりにくいという意見があります。こうした意見に対し、公募

配分方式では、地域で配分団体の公募をかけることにより、住民主体の先駆的な取り組みを発掘し、内容を確認した上で配分を決めていくことができます。要望団体からの申請資料やプレゼンテーションによる審査を実施し、厳正な審査のもと配分先を決定します。

を強め災害にも強いまちづくりを進める役割を果たしています。

全国の都道府県共同募金会では、各都道府県の毎年の募金総額の3%を「災害準備金」として積み立てています。これは、県内、国内で大規模災害が発生した場合に、社会福祉協議会等が災害ボランティアセンターを立ち上げ、県内外からボランティアを受け入れてコーディネート業務を行うための活動費を中心として積立金から支援資金を援助する制度です。

香美町「一般公募事業」
香美町社会福祉協議会では、平成24年度から公募配分に取り組んでいます。平成25年度は5団体の配分が決定し、「香美町防災士連絡会」による防災グッズの整備事業では、購入されたグッズがサロン等での防災講習等に活用されています。また23回目となる「射添・矢田川まつり」事業では、高齢化の進む中、住民が中心となり平時からの地域のつながり

防災グッズ(ヘルメット、備蓄用品等)は、講習時以外に町内公共施設で展示する



プレゼンテーション審査会では各要望団体が日頃の活動を積極的にアピールする



射添・矢田川まつりは町民の絆を深める年1回の一大イベントでもある

災害に備えた
準備金の積み立て

全国的な支援制度であり、平成23年3月の東日本大震災にあっては、全国の府県から支援金を送り、兵庫県からも当初3,160万円の支援金を中央共同募金会を通じて送金しました。

このたび8月16日からの大雨災害でも、丹波市社協による災害ボランティアセンターの開設にあたり、立ち上げ・運営費用として、180万



社会福祉法人による地域貢献の取り組みが最近注目されているね。今回は、地域課題への対応の一環として職員がパトロール車で地域の見守り活動などを行っている、高齢者総合福祉施設「さざんかの郷」取材してきたよ!



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

全ての事業の キーワードは「地域」

三木市吉川町の福祉ゾーンに位置する、社会福祉法人吉川福祉会が運営する「さざんかの郷」は、介護保険事業をはじめとしたさまざまな事業を展開している。事業の根幹として重視しているのが、地域で制度の狭間にある課題に対応する「地域交流事業」だ。「地域には、子どもも障害者も高齢者もいる。種別の壁を乗り越えないと、この事業は不可能」と、理事長の西澤正一さんが話すように、町内に障害者のホームヘルプサービス事業がなければ、「さざんかの郷」自らがサービスを立ち上げるといった取り組みを行ってきた。

法人全体でも、県内外の少年鑑別所の試験観察補導^{※1}の受託や、近隣の播磨社会復帰促進センター^{※2}の教育訓練への講師派遣等、支援の輪が広がりにくい部分に着目し、継続した支援を展開している。

職員も地域の一人として

このような取り組みの中、職員も



「地域防犯見守り隊」のパトロール車(後ろに続くのは警察のパトカー)



法人全ての車に、理事長が描いたイラスト付きのステッカーが貼られている

地域の一員として地域課題に取り組み、と、平成18年に特定非営利活動法人「ゆずり葉福祉会」を有志10名で立ち上げ、地域防犯見守り隊が結成された。職員が登下校時間帯に、町内の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校の通学路を、青色回転灯付パトロール車で1時間ほど巡回するという取り組みだ。

田んぼが豊かに広がる町内は、夜は人通りも少なく、真っ暗になる。青色回転灯が付いたパトロール車の巡回は、住民にとって非常に心強い。巡回時には振り込め詐欺防止や自転車の夜間点灯などのアナウンスが流れる。パトロール車は、子どもだけではなく住民全体の見守りにもつながっている。

より豊かな地域を目指して

このようなさまざまな活動を行った結果、「さざんかの郷」主催の夏祭りには、旧吉川町民の約3分の1が

取材を終えて

「『吉川福祉会』という木が立っている『地域』に恩返しするため、どの葉も枯らさないように、種をまいて次の木を育てていく」という西澤理事長の言葉に、日々継続して取り組むことの大切さを感じました。

社会福祉法人 吉川福祉会
三木市吉川町大沢418番地
☎0794-72-1170

※1 家庭裁判所において少年の処分を直ちに決めることが困難な場合(一定期間、民間施設に指導を委ね、少年を観察すること。
※2 PFI方式(公共施設等の運営を民間の経営能力を活用して行う手法)で運用されている官民協働型の刑務所。

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

県内各地で「地域フォーラム」「推進フォーラム」が開催されます!

全県キャンペーンでは、全県的な啓発活動を進め、運動の裾野を広げていくことを目的として、開始当初より市町社協による「地域フォーラム」の開催を支援しており、平成26年度は下記の通り地域フォーラムが実施される予定です。

また、今年度はキャンペーン推進協議会の幹事団体による「推進フォーラム」も新たに下記の通り開催されますので、併せてお知らせいたします。

このほかにも、キャンペーンの趣旨に合致する事業

がありましたら、本ページ等で広報いたしますので、ぜひお知らせください!



上郡町社協での地域フォーラムの様子(8月30日)

平成26年度に開催予定の「地域フォーラム」(社会福祉協議会実施)

団体名	フォーラム名	開催日	開催場所
香美町社会福祉協議会	集落のつながりづくりフォーラム	5月27日、6月7日、6月14日	香住文化会館、村岡老人福祉センター、いこいの里
篠山市社会福祉協議会	安心して暮らせるまちづくりフォーラム	7月6日	篠山市立篠山市民センター
上郡町社会福祉協議会	認めあおう・つながりあおう・わたしたちの地域づくりフォーラム	8月30日	上郡町生涯学習支援センター
稲美町社会福祉協議会	ひとりぼっちをつくらない地域づくりフォーラム	9月19日	稲美町立加古福祉会館
川西市社会福祉協議会	「つながりあい・学びあい・伝えあい・支えあい」を高めるフォーラム	9月20日	川西市文化会館
丹波市社会福祉協議会	ささえあいの輪を広げるフォーラム	10月25日	春日文化ホール
高砂市社会福祉協議会	共に生きる地域フォーラム	10月26日	高砂市文化会館、高砂市福祉保健センター
宝塚市社会福祉協議会	地域のつながり・ささえあいを考えるフォーラム	10月30日	宝塚ホテル
養父市社会福祉協議会	地域で支え合うためのフォーラム	11月1日	養父市立ビバホール
伊丹市社会福祉協議会	地域見守りフォーラム	11月20日	伊丹アイフォニックホール
小野市社会福祉協議会	「無縁社会」を考えるつどい	11月21日	小野市うるおい交流館エクラ
西脇市社会福祉協議会	いきいきふれ愛フォーラム	11月22日	西脇市民会館
南あわじ市社会福祉協議会	共に生きる地域づくりフォーラム	1月11日	南あわじ市西淡公民館
三田市社会福祉協議会	これからの三田の地域づくりを考えるフォーラム	1月25日	三田市総合福祉保健センター
佐用町社会福祉協議会	ご近所福祉について考えるフォーラム	2月8日	佐用町立南光文化センター
宍粟市社会福祉協議会	宍粟市地域福祉フォーラム	2月11日	山崎文化会館
淡路市社会福祉協議会	淡路市集落福祉フォーラム	2月	未定
芦屋市社会福祉協議会	ストップ・ザ・無縁社会地域フォーラム	3月5日	芦屋市福祉センター

平成26年度に開催予定の「推進フォーラム」(幹事団体実施)

団体名	フォーラム名(開催テーマ)	開催日	開催場所
生活協同組合コープこうべ	「認め合い・つながり合い」の地域づくりを考えるフォーラム (「認め合い・つながり合い」の地域づくり)	9月19日	兵庫県農業会館
兵庫県民生委員児童委員連合会	地域児童育成環境づくりフォーラム (こどもの笑顔が輝く地域力~ふるさとを愛する心~)	9月28日	丹波の森公園
兵庫県子ども会連合会	兵庫県子ども会育成大会 (子どもがいそいそと育つ地域づくり~ふるさとを大切に育てよう~)	11月9日	西淡公民館

※各フォーラムの詳細は、実施する市町社協・団体までおたずねください。

広げよう！ 地域の安心拠点

小地域に根付いた地域の拠点づくりの取り組みをシリーズで紹介します。

誰もが立ち寄れる地域の居場所を開設！ ～井吹台地区の取り組み～



地区の概況

神戸市西区の中央に位置する井吹台は、平成5年に西神南ニュータウンとしてまち開きをした。団塊の世代を中心に高齢化が進行するエリアや阪神・淡路大震災後に復興住宅が建設され単身高齢者が多いエリアがある一方、若い子育て世代が集まるエリアも含まれる。復興住宅で活動していたボランティア団体が母体となり発足した「NPO法人 ニューいぶき」は、平成26年4月に民家を改修した地域の拠点として「いぶき庵」をオープンした。

基礎データ

(平成26年7月31日現在)

人口：31,094人
世帯数：11,087戸 高齢化率：14.0%
学校：中学校1校、小学校3校



母親たちの活動から 始まったまちづくり

ニューいぶきの発足は、子育て世代の母親たちの活動がきっかけであった。登下校時の子どもたちのパトロール活動から始まり、学校側にPTA・自治会などの組織化を呼び掛けるなど、まちの拡大とともに活動規模を広げていった。

震災後は、復興住宅での友愛訪問や、喫茶などを通じた住民同士の交流支援、集会所での健康相談やミニデイサービスなども行ってきた。「その都度、自分たちで必要なものをつくってきた」と話すのは同法人の坂本代表。サービスを提供するだけでなく、顔の見える住民同士だからこそできる活動にこだわってきた。

今回いぶき庵を開設した理由は、こうした活動の中で、家族と暮らしていても日中は一人で過ごす高齢者が増えている状況が見えてきたからだ。そこで、自治会連合会、老人会、社会福祉協議会などと話し合い、誰でも気軽に立ち寄れる居場所を地域の中につくり、見守りを進めていくことが確認された。



いぶき庵のオープン喫茶には、いつも多くの人が訪れる

地域みんなの 憩いの場！

いぶき庵は平日は毎日開設しており、買い物やグラウンドゴルフの帰りなどに近隣住民が立ち寄れる場となっている。集まった人たちがお茶飲み友だちとして顔見知りになり、「最近あの人見てないし、帰りに寄ってみよか」と見守りにもつながっている。

また、これまでのノウハウを生かし、デイサービスの利用前で家族が家にいない時間に看護師による一時預かりを実施したり、介護や生活に関する相談に応じたりと、きめ細かくニーズに対応しながら誰もが利用できる環境を整えている。

いぶき庵ができたことで「誰でも来れて、安心して、ずっとこのまちに住み続けたいと思う人が増えたら」と坂本代表は話す。いぶき庵はこれから、地域になくはない憩いの場として根付いていくだろう。

今回取材した拠点のご紹介

いぶき庵 神戸市西区井吹台東町4-20-7 ☎078-995-5407(月～金曜日10:00～12:00)

あなたのまちの 社協ナビ

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

活動を
もっと詳しく
知りたい方は

洲本市社協
☎0799-26-0022
洲本市社協 検索



地域で困っている当事者や家族に 寄り添う地域づくり

洲本市社協では、「誰もが安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指し、子どもから高齢者、障害のある方が自分らしく暮らし続けられるまちづくりに向け、地域住民や関係機関と協働した地域福祉活動が展開されている。高齢化が進む中、認知症の方も地域で安心して暮らしていくため、さまざまな当事者・家族会の方々の声からの学び・気付きを出発点とし、地域の担い手育成や地域住民の交流の場づくりに取り組んでいる。

継続的な支援による家族会の組織化

市社協で、認知症の当事者に対する支援が始まったのは、昭和63年に開催した介護者向けの教室にさかのぼる。その後、教室の参加者による話し合いの中から「介護者同士の交流・集いの場が必要」との声が上がり、社協が後押しをする形で、平成12年に「にじの会」(旧市域)、平成19年から「ごしきの会」(旧五色町域)として認知症の家族会がそれぞれ結成され、現在まで活動を継続している。

社協職員は、毎月の定例会に参加し、介護に必要な情報提供を行うとともに、家族会で出された意見を地域包括支援センター等の関係機関も交えて一緒に実現できるように、継続的な支援を行っている。

定例会では、近況報告だけでなく介護の勉強もしています



悩みの共有から、支え合いの輪の拡大へ

家族会の立ち上げ当初は、介護者同士での悩みの共有や認知症に関する学習会が中心だったが、次第に介護者の関心や想いをベースに、介護施設の見学や他市町の家族会との交流などへと活動が発展してきた。社協職員は、きめ細かな情報提供や関係機関との調整など側面的支援を行っている。

最近では、家族会が中心となって介護施設を交えたクリスマス会なども開催してきたが、平成23年11月には県内の家族会が一堂に会する「介護者のつどい IN 淡路島」を洲本市で開催した。

社協が関わることにより、家族会だけで完結するのではなく、介護者・関係機関・他市町の家族会などさまざまな人や団体とのつながりを大切にした支え合いの輪が広がっている。

洲本発で県内の家族会の交流ができました！



取材を終えて

在宅で24時間寄り添いながら介護することは、介護者にとって苦勞の連続だと思います。家族会という場で介護の苦悩を分かち合うことで、学びやリフレッシュができます。当事者が本来持っている力を十分に発揮できるよう、寄り添いながらサポートしている社協の取り組みは、地域福祉の原点だと思いました。

会長から 洲本市社会福祉協議会 会長 伏見 正夫

洲本市社協では、「誰もが安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指し、子どもから高齢者、障害のある方が自分らしく暮らし続けられるまちづくりに向けて、地域住民の方々や関係機関と共に活動を展開しております。

今後ますます高齢化が進む中、認知症の方も安心して暮らしていくために、家族会の皆さんと連携を深めながら、これからもさまざまな事業に取り組んでいきたいと考えています。

また、今後もさまざまな当事者の方々の声からの学び・気付きを出発点とし、当事者へ寄り添いながらサポートを行っていききたいと思います。



**兵庫県社会福祉政策に対して
提言活動を開始**

兵庫県社会福祉協議会社会福祉政策委員会(以下、「政策委」)は、このたび、「平成27年度兵庫県の社会福祉政策への提言」(以下、「提言書」)を取りまとめた。平成27年度は、介護保険制度の改正や生活困窮者支援施策の本格実施など、大きく社会福祉施策が変わる年となることを踏まえ、今回の提言書は、県内の市町社協、施設種別協議会などのサービス提供者、当事者団体などのサービス利用者からの幅広い声をもとにまとめ、全117項目にも及ぶ幅広い分野を網羅するものとなった。政策委では、この提言書をもとに、以下の通り提言活動を展開した。

兵庫県への政策提言

8月5日、政策委は県庁を訪問し、県知事と会談した。会談では、政策委正副委員長より提言を行い、社会福祉法人制度の見直し論議や福祉人材の確保策、福祉教育の推進や生活困窮者自立支援施策の推進など、幅広い分野について意見交換を行った。

**8月16日からの
大雨災害に関する
対応について(続報)**

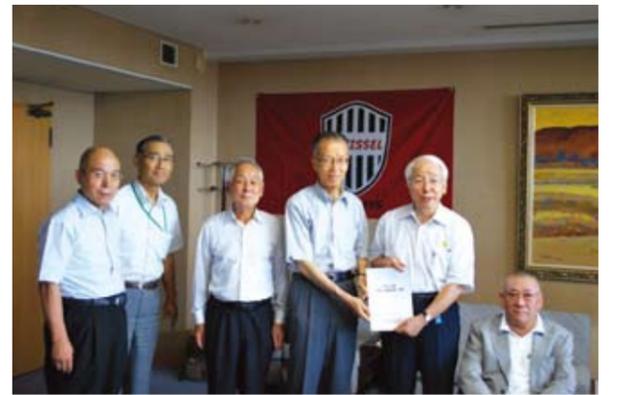
このたび丹波市を中心に発生した大雨災害については、9月に入ってからボランティア等による懸命な被災地支援活動が展開された。

ボランティアによる活動

丹波市災害ボランティアセンターでは、二度にわたり開設期間を延長し、特に被害が甚大であった市島地域のニーズを中心に対応を行った。同センターにおけるボランティアの登録者数は9月16日までの29日間で延べ13,860人(個人4,455人、団体9,405人)。家屋内外の泥出しに加え、拭き掃除や室内整理などの多様なニーズに対する復旧活動が継続して行われた。また、県社協およびボランティアリーダーでも、計10次にわたり同市への災害ボランティアバスを運行した。

県内社協による応援体制

県内市町社協からの同市への職員派遣では、累計で延べ400人を超える職員が災害ボランティアセンターの



井戸敏三県知事へ提出

ど、幅広い分野について意見交換を行った。

また、同日、県当局に対する説明会を、県健康福祉部長をはじめとする県関連部局幹部が一堂に会する中で開催した。各政策委員から提言項目について説明がなされ、今後予定されている次年度県施策の検討に際して、提言書で提起した内容の積極的な活用を要望した。

**兵庫県議会・市町への
政策提言**

政策委は、8月11日、県議会を訪問し、県議会議長、同副議長と会談

運営や被災地区におけるニーズ調査等の支援にあたった。このほか、各市町社協からはボランティアバスウゴンの運行や資機材・物資の支援、義援金募集への協力などが行われ、県内の社協が一丸となつての支援が展開された。



経験豊かな社協職員がボランティアとともに現地の活動を支援

「丹波市復興支援ボランティアセンター」への移行

9月17日からは当初からの泥かきニーズへの対応に一定の目途がついたことにより、市町社協などの運営による丹波市復興支援ボランティアセンターへと体制を移行。市島地域では、3地区のコミュニティセンターで支援活動の拠点が設置されることとなった。今後も引き続き、被災者の生活復興に向けた対応が行われる予定だ。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

丹波市社会福祉協議会

本会では、8月16日より降り続いた大雨による市内各地の被害に対応するため、8月19日より丹波市災害ボランティアセンターを開設して、県内外のボランティアの皆さまのご協力による支援活動を展開してまいりました。お越しいただいたボランティアの皆さまは延べ13,860名に上りました。厚くお礼申し上げます。

また、災害ボランティアセンターの運営にあたっては、地元で活躍されている災害支援ボランティアネットワーク丹波の皆さま、同じく経験豊かな県内市町社協職員の皆さまの応援をいただき、大きな事故もなく、3週間以上の長期にわたって支援活動を続けることができました。

9月17日以降は、生活支援等を中心としたニーズにも対応していくため、「丹波市復興支援ボランティアセンター」に移行いたしました。被災された皆さまの生活復興に向けて、地元主体による支援を展開しているところです。



連日、多くのボランティアの皆さまのご支援をいただきました!

これまで救援活動に多大なご尽力をいただきました、ボランティアの皆さま並びに県内市町社協の皆さまに、重ねて衷心より厚くお礼申し上げます。

連絡先 丹波市社会福祉協議会
〒669-3602 丹波市氷上町常楽209-1 氷上健康福祉センター内
☎0795-82-4631 FAX0795-82-4519
URL <http://tambawel.jp/>

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp



梶谷忠修県議会議長、
松本孝弘同副議長へ提出



野間洋志政務調査会長、浜田知昭同副
会長へ提出(自由民主党議員団)



石井健一郎政務調査会長へ提出
(民主党・県民連合議員団)



下地光次政務調査会長
(公明党・県民会議議員団)



ねりき恵子団長へ提出
(日本共産党兵庫県議会議員団)



石原修三幹事長、和田有一朗政務調査
会長へ提出(県政クラブ・連合)

したのを皮切りに、各会派の議員団を訪問し、代表者に対して提言活動を行うとともに、全県議会議員に対して、提言書を配布した。

さらに、市町への政策提言活動も併せて実施し、県市長会、県町村会、県市議会議長会、県町議会議長会を訪問し、提言活動を行うとともに、県内各市長、町長、市議会議長、町議会議長へ提言書を配布した。

今後、兵庫県および県内各市町に

おいては、平成27年度から始まる新たな福祉制度・施策への準備が本格化していく。政策委は、幅広い関係者の声を集め、届けることのできる強みを生かし、兵庫県および各市町の社会福祉政策のさらなる発展のため、積極的に活動を展開していく。

※提言書の項目は、本会ホームページ(<http://www.hyogo-wel.or.jp/>)にて掲載いたします。

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

一般社団法人生命保険協会

元気シニア応援団体に対する助成活動

対象 高齢者を対象にした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動を行っている民間非営利の団体、ボランティアグループ、NPO法人等で、所定の要件を満たす団体

助成額 1団体あたり上限15万円(総額500万円)

締切り 平成26年10月15日(水)消印有効

☎☎一般社団法人生命保険協会
TEL03-3286-2643

URL <http://www.seiho.or.jp/>

公益財団法人トヨタ財団
国内助成プログラム

地域資源を活用し、地域課題に取り組む仕事の創出とその担い手の育成を目指します。

対象 市区町村自治体以下の範囲を主たる活動地として実施されるプロジェクト

助成額 1年間プロジェクト:1件あたり上限300万円、2年間プロジェクト:1件あたり上限600万円(総額1億円)

締切り 平成26年10月31日(金)15時

☎☎公益財団法人トヨタ財団
TEL03-3344-1701

URL <http://www.toyotafound.or.jp/>

公益財団法人損保ジャパン記念財団
認定NPO法人取得資金

「認定NPO法人」の取得に必要な資金を助成します。

対象 社会福祉分野で活動し、認定NPO法人の取得を計画している特定非営利活動法人

助成額 1団体30万円(総額600万円予定)

締切り 平成26年10月31日(金)17時

☎☎公益財団法人損保ジャパン記念財団
TEL03-3349-9570

URL <http://www.sj-foundation.org/>

公益財団法人キリン福祉財団
平成27年度キリン・子育て応援事業

対象 「地域」「子育て」「ボランティア」の3つのキーワードに合致する、地域での子育てに関わるボランティア活動を目的とする民間団体

助成額 1件(1団体)上限30万円(総額3,500万円)

締切り 平成26年11月9日(日)消印有効

☎☎公益財団法人キリン福祉財団
TEL03-6837-7013

URL <http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
平成27年度活動助成

事故・災害の備えに関する活動や、事故・災害が起こった後の心身のケアに関する活動に助成します。

対象 近畿2府4県に拠点があり、募集開始時点で1年以上の継続活動実績がある団体

助成額 1件あたり70万円以下(総額5,000万円程度を予定)

締切り 平成26年11月17日(月)必着

☎☎公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
TEL 06-6375-3202

URL <http://jr-w-relief-f.or.jp/>

研修・イベント

第1回生活困窮者自立支援全国研究交流大会
「新法をみんなで育てよう」

日程 平成26年11月8日(土)～9日(日)

会場 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

内容 基調鼎談、分科会ほか

☎☎全国コミュニティライフサポートセンター
TEL022-727-8730

URL <http://www.life-poor-support-japan.net/>

介護の日シンポジウム

「あなたはどのように最期を迎えますか?」

日時 平成26年11月10日(月)13:30～17:15

会場 兵庫県農業会館11階大ホール

内容 講演①「地域包括ケアシステムってなに?」(淑徳大学教授結城康博氏)、講演②「平穏死のすすめ」(特別養護老人ホーム芦花ホーム常勤医師石飛幸三氏)

☎☎一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会
TEL078-291-6822

URL <http://www.hyogo-kenroukyo.jp/>

若年性認知症啓発フォーラム

若年性認知症の本人が抱える不安や思い、希望について、本人の声を通じて理解を深めます。

日時 平成26年11月30日(日)

13:00～15:30

会場 兵庫県農業会館11階大ホール

参加費 無料

内容 講演「認知症の人の理解と課題～若年性認知症・初期認知症の本人の視点から～」 「当事者が望む主体的な生活を、どう継続していくのか」

☎☎兵庫県社会福祉協議会ひょうご
若年性認知症生活支援相談センター
TEL078-242-0601

行事予定

10月 3日 近畿ブロック日常生活自立支援事業担当者会議◆県福祉センター

6日 これからの「災害ボランティアセンター」を考える全国フォーラム◆神戸国際会議場

15日 看護職員研修◆県社会福祉研修所

17日 経営協 第231回理事会・例会◆県福祉センター

21日～ チーム・マネジメントリーダー研修Bコース(全4回)◆県社会福祉研修所

22日 兵庫県ホームヘルプ事業者協議会サービス提供責任者研修(基礎編)◆県福祉センター

23日 福祉の就職説明会AUTUMN in HYOGO◆尼崎市総合文化センター

24日 県協第235回理事会◆県福祉センター

26日 第17回介護支援専門員実務研修受講試験◆神戸大学ほか

29日 第2回社協ワーカー実践研究会◆県福祉センター

30日 NPOと行政の協働会議◆姫路路総合庁舎福祉センター

31日 福祉の就職説明会AUTUMN in HYOGO◆明石市立産業交流センター

11月4日～ 介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修A(後期)◆県社会福祉研修所ほか

7日 若年性認知症家族介護者研修会◆県福祉センター

8～9日 ふれあいの祭典・コウノトリ翔る但馬まるごと感動市◆県立但馬ドーム

9日 福祉の就職説明会AUTUMN in HYOGO◆姫路商工会議所

14日 第63回兵庫県社会福祉大会◆三田市総合文化センター

19日 生活支援員(現任)研修会◆県福祉センター

28日 第4回県内社協事務局長会議◆県福祉センター

30日 若年性認知症啓発フォーラム◆兵庫県農業会館

保育所への就職をサポートします。

フランクOK

新卒OK

資格を持ちながらも保育の現場を離れている「潜在保育士」の就職支援や、保育の現場への就労を希望される新卒者および一般求職者(看護師、栄養士、調理師等)の就職支援を行っています。ぜひ、ご利用ください。



こんなことをサポートしています。

- 潜在保育士の就職支援 ●保育士養成施設の新規卒業者の就職支援
- 保育現場へ就労を希望される一般求職者の就職支援

求職者の皆さん、登録はとっても簡単!

- ①求職登録…求職票(HPからダウンロード可)で登録
- ②求人情報提供・相談…来所・HPで求人情報の概要をご覧ください
- ③紹介…選考日等の調整を行います
- ④応募・面接…選考書類を郵送もしくは持参してください
- ⑤採用

(出張相談や就職フェア、就職セミナーも開催しています。ぜひ、ご参加ください。)

詳しくは

兵庫県保育士・保育所支援センター 神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター6F
TEL.078-242-4637 FAX.078-242-4737 e-mail hokyo-center@apricot.ocn.ne.jp

兵庫県保育協会

検索